

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	Qp/Qs 変化による薬物動態の変化
研究責任者	聖隷浜松病院 麻酔科 池上 宏美
研究実施体制	研究責任施設 聖隷浜松病院 麻酔科
研究期間	2019年6月1日～2020年8月31日
対象者	心房中隔欠損のある患者で、Amplatzerによる閉鎖術適応患者
研究の意義・目的	心拍出量の変化は薬物動態に影響しうるが、小児での報告は少なく、特に左右短絡を有する児における薬物動態は含まれていません。先天性心疾患において Qp/Qs は手術適応や重症度を把握する因子ですが、加えて麻酔管理においては Qp/Qs の違いが麻酔効果に影響しうることとなります。しばしば Qp/Qs が高い症例における薬物の効果発現の遅延を経験しており、Qp/Qs の変化で薬物の作用発現が変化するのかを検証します。
研究の方法	研究デザイン 前方視的観察研究 方法 心房中隔欠損のある患者で、Amplatzerによる閉鎖術適応患者を対象に、Amplatzer閉鎖術の術前検査目的で、経食道心エコー検査を全身麻酔(全静脈麻酔)下で行う時、ロクロニウム投与から TOF モニターで TOF0 になるまでの時間を測定します。全身麻酔中は TOF1 で維持し、検査終了時スガマデックスを投与し、TOF1 から TOF4 90% になるまでの時間を測定します。後日、Amplatzer 閉鎖術を全身麻酔(全静脈麻酔)下で行うときも、同様に時間を測定します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 麻酔科 (氏名)池上 宏美 TEL:053-474-2222(代表) 9:00～17:00 平日